

# 日本人学生の異文化間コミュニケーション能力の養成 —英語を共通言語として行う留学生とのグループワークを通して—

田崎 敦子

## 1. はじめに

近年、日本人学生と留学生混合の多文化クラス（注 1）の講義が、両者の相互理解のためのインターフェイス（注 2）として、また、異文化間コミュニケーション能力向上の場として注目され、その教育効果が高く評価されている（細川 1999、奥村 1999、土屋 2000）。

こうした多文化クラスは、留学生にとって、自分が今体験している「異文化」を話題にし、日本人学生と交流が持てるという点で興味深い講義であり、受講を希望する者も多いであろう。では、日本人学生はどうだろうか。これまでの報告を見ると、日本人の受講者は、外国語教育等、専門が異文化交流、異文化間コミュニケーションと深く関連している者、または、受講前から留学生交流に強い関心を持っている者が中心となっているようである。

しかし、多文化クラスの目的を、日本人学生と留学生の相互交流の促進、延いては彼らの国際感覚を養成することとするならば、専門分野に関わらず、より多くの日本人学生に対して、異文化への関心を喚起し、異文化間コミュニケーション能力の向上を図る教育を行う必要がある。しかし、現在、そのための教育的対応は確立されていない。

そこで、筆者は、本学大学院の農学研究科国際環境農学専攻において、留学生センターが 1999 年度から担当している「異文化間コミュニケーション学」を日本人学生の視点から分析することにした。この講義は、日本人学生と留学生のコミュニケーションの活性化を目的として、多文化クラスで行っている。前述した報告とは異なり、日本人学生の専門は、異文化間コミュニケーションと直接関連はない。では、彼らは、どのような目的で本講義を受講したのであろうか。そして、講義を通して何を学んだのだろうか。こうした点を明らかにすることで、日本人学生に対する異文化間コミュニケーション教育の促進、またその有効な教育内容、方法の開発に貢献できるのではないかと考えた。

本稿では、2001 年度に行った「異文化間コミュニケーション学」の講義を取り上げ、日本人学生に対するアンケート調査の結果をもとに、彼らの受講目的、自己評価、講義評価について考察する。

## 2. 2001 年度の講義

### 2-1. 概要

留学生センターが行っている「異文化間コミュニケーション学」の教育内容、方法に関

しては、田崎（2002）に詳しい。本講義の特徴は、教育研究を英語で行う農学研究科国際環境農学専攻の方針に基づき、共通言語を英語としている点と、講義の後半にグループで行うタスク活動を取り入れている点にある。

2001年度前半の講義では、非母語話者に理解しやすい「やさしい英語」、「やさしい日本語」（注3）について解説した。後半のタスクでは、日本語能力が低い留学生のために、日本で大学生活を送る上で必要な情報を、英語非母語話者に理解しやすい英語にすることを課題とした。受講者のニーズ調査の結果、必要度の高い情報として、「公共料金の請求書」、「履修案内」、「学生食堂のメニュー、生協の本の注文書」が選ばれ、3つのグループ（各5～6名）が、これらの英語版を作成した。

尚、ここでは、タスクを「特定の目的を達成するためにコミュニケーション行わせるための課題」と定義する。コミュニケーションは、石井（2001）の定義に基づき、「複数の人間が内的及び外的条件の影響を受けながら、言語メッセージ及び非言語メッセージを交換することによって、意味を共有する相互行為の動的過程」とする。本講義の共通言語である英語は受講者にとって外国語であるが、白畑他（1999）が定義する外国語教育におけるタスクと異なり、言語習得は目的としない。コミュニケーションを可能にするために有効であれば、英語以外の言語、非言語、その他の手段の使用も奨励する。

## 2-2. 日本人学生の傾向

日本人学生の中で、海外滞在経験のある者は皆無であった。国内においても特に外国人と交流がある者はなく、英語でコミュニケーションを行った経験がほとんどなかった。

## 2-3. グループワークにおける日本人学生の役割

今回行ったグループワークでは、日本語で書かれた情報を英語に翻訳することがタスクを達成するための不可欠なプロセスとなる。しかし、国際環境農学専攻では、留学生に日本語能力を要求していないため、留学生の日本語能力は低い。よって、日本語の情報を英語で留学生に伝えることができるのは日本人学生しかいない。こうした状況が日本人学生の役割を明確にし、責任感を強めた。その結果、彼らは、公共料金の請求書や履修案内、学生食堂のメニュー等、これまで英訳した経験がなく、翻訳するには困難な情報を、英語で留学生に伝える作業に積極的に取り組んだ。

## 3. アンケート調査の結果

受講者全員に、受講目的、5回行ったグループワークにおけるコミュニケーション、また講義評価等に関するアンケート調査を記名式で行った。特に、受講者のコミュニケーションの変化を見るために、アンケートは、2回目のグループワークが終了した時点（"How

is it going?”資料 1 参照) と、5 回目終了後 (“How was the course?”資料 2 参照) の 2 度行った。受講者の語学力を配慮し、回答は母語で書いてもよいこととした。回答者は、受講者全員で、留学生 10 名、日本人学生 6 名 (注 4) であった。以下、日本人学生から得た結果の概要を述べる。

### 3-1. 受講目的

留学生の主な受講目的が「様々な文化の人と話し、異文化に対する理解を深めたい」という異文化理解、異文化交流であったのに対し、日本人学生は、「英語能力を高めたい、英語でコミュニケーションがとれるようになりたい」(4 名)、「留学生と交流し、異文化理解を深めたい」(2 名)、その他、「留学生のチューターなので、留学生と同じ講義をとった」、「単位が必要だった」が 1 名ずつ(複数回答あり)と、様々であった (“How was the course?” Q1)。

特に専門科目と関連がない本講義を履修した日本人学生は、異文化交流に対する興味が全くないわけではないだろう。しかし、それ以上に、「英語のコミュニケーション能力の向上」が強い受講動機になっていることが上記の結果からわかる。彼らの英語能力を厳密に測定していないが、“How is it going?”の Q5 では、筆者ら日本人講師が話す英語の理解が難しいとした者が 3 名、また Longman “Dictionary of Contemporary English”の基本英単語 2000 語を中心として書かれたハンドアウトを読む際も辞書を使用するとした者が 4 名いた。特に、英語を書くことに関しては、5 名が大変困難だと述べている。

### 3-2. グループ内のコミュニケーション

#### 3-2-1. 前半のグループワーク終了後

2 回のグループワークを終えた時点でのコミュニケーションの状況については、“How is it going?” Q1~4 の回答に示されている。使用言語は全員が英語を第一に、第二に日本語を挙げている。その他のコミュニケーション方法として、辞書、ジェスチャーの使用をあげたものがそれぞれ 2 名いた。

意思の疎通に関しては、英語使用の困難、コミュニケーション・スタイルの相違に対する戸惑いを述べるコメントが中心となっている。具体的には、「日本人の英語はわかるが、留学生の英語が速くてわかりにくい」、「留学生の中には、強引に話を進めてしまう人がいるので、話し合いが難しい」、「初めて話す人達と一緒にタスクを達成できるのか不安」、「留学生の言っていることは、一対一で話すとはわかるが、グループ全員での議論になると理解が難しくなる」という内容であった。

#### 3-2-2. グループワーク終了後

グループワーク終了後に行ったコミュニケーションに関する自己評価は、“How was the course?” Q2～6で述べられている。ここでは、意思の疎通を図るために使用した様々な方略についての報告が中心であった。「ジェスチャーを使う」、「通訳を頼む」、「ゆっくり話す」、「相手が言ったことを理解するまで質問する」、「絵を描く」、「伝える内容を簡潔にする」、「相手の言った単語がわからない場合は、その綴りを聞き、辞書で調べる」、「タスクを進める際に誤解が生じたことが何度かあったので、大切なことは紙に書いた」「相手の話を注意深く聞く努力をした」等、自分の言いたいことを英語で表現できない場合の工夫が書かれている。また、英語能力の不足を感じた学生で、「言いたいことは、講義前に英文を作り、紙に書いて準備しておく」という者もいた。

一方、「ディスカッションの経験がほとんどなく、どのように話に参加していいかわからなかった」という感想もあり、彼らの発言を妨げる要因となっているのは、外国語の使用だけでなく、ディスカッションというコミュニケーションの形態にもあることがわかった。

### 3-2-3. コミュニケーションの活性化

講義開始時のクラスメートのコミュニケーションに関しては、「日本語が通じる相手としか話さなかった」、「留学生とは挨拶しかしなかった」と振り返っており、話す頻度も低かった(“How was the course?” Q10, Results 参照)。しかし、グループ内では、グループワークを重ねるごとに、自分たちの期待以上にコミュニケーションがとれ、コミュニケーションに伴う心理的負担も軽減したと評価している(“How was the course?” Q11(1), Results 参照)。グループ内のメンバーと比較すると少ないが、グループ外の留学生とのコミュニケーションにも、量の増加、心理的負担の軽減が見られる(“How was the course?” Q11(2), Q12(2), Results 参照)。

講義を通して自分のコミュニケーションに変化があったかという設問(“How was the course? Q13)には、「グループ活動後は、留学生と話すことが多くなった」、「日本で生活する留学生の問題を理解し、彼らの気持ちがわかるようになったので親しみを持って話せるようになった」、「クラスで知り合った留学生と仲良くなり、留学生のアパートへ行ってエアコンを修理してあげた」等の回答があった。こうした声は、日本人学生と留学生とのコミュニケーションが活性化され、交流が深まったことを示している。

### 3-3. 共通言語としての英語に対する意識

英語を共通言語とした場合、コミュニケーションに影響があるかという設問(“How was the course?” Q7)には、日本人学生全員が「困難になる」と答えている。留学生から出た「日本語と違い、英語は日本人も留学生もわかる言語なのでコミュニケーションが容易になった」、「英語は得意ではないが、日本語よりはわかるので日本人とも話せた」という肯

定的なコメントとは対照的である。これは、日本人学生と留学生の英語に対する意識の相違を示している。日本人学生にも、非英語圏出身者である留学生にも英語は外国語であり、英語を共通言語としたコミュニケーションは決して容易なことではないはずである。しかし、日本語能力が低い留学生は、日本人学生と、また出身国が異なる留学生とのコミュニケーションの手段として英語を肯定的に捉えている。それに対して、日本人学生は、外国語でのコミュニケーションの不自由さだけを感じている。

#### 3-4. 日本人学生の講義評価

日本人学生は、講義の中でタスク活動を最も高く評価している。「異なる文化を背景にする人と英語でコミュニケーションすることの困難を体験した」、「タスクを通して留学生が直面する問題がわかった」、「英語で話さなければならぬので、はじめは他の講義よりかなり難しく、緊張したが、グループワークを通して、英語を話したり、書いたりしながらコミュニケーションを取ることに少しずつ慣れてきた」、「留学生と英語で話し合い、タスクを完成させたことがうれしかった」と述べている。

また、うまくコミュニケーションがとれなかった学生も、今回の経験を生かし、今後の英語学習、また留学生との交流に積極的に取り組む意欲を示している。「自分の英語能力の低さを実感した。今後は、もっと英語の勉強に力を入れたいと思う」、「うまく意見を言うことができなかったが、グループのメンバーと協力してタスクを完成させたことに達成感を感じる」、「これからは留学生ともっと交流したいと思う」、「今回はうまく話せなかったが、今回の経験が将来外国人と話す際に役立つと思う」という感想が述べられていた。

しかし、一方では、講義で留学生の問題に取り組むことに疑問を持つ者、また、タスクを遂行するのではなく、自由なトピックで話し合いをする方がよかったという意見を示す者もいた。

### 4. 考察

上記のアンケート調査の結果は、本講義が、日本人学生の異文化理解の促進、留学生とのコミュニケーションの活性化という点で有効であったことを示している。こうした効果は、彼らがグループワークに参加し、実際にコミュニケーションを体験することにより生まれた。では、ディスカッションや英語で話すことに不慣れな日本人学生にグループワークの参加を促したものは何だったのだろうか。この点について、本講義の特色である「英語使用」、「タスクの活用」という面から考察する。

#### 4-1 英語使用の効果

本講義では、英語を共通言語としているが、この点が日本人学生にどのような影響を与

えたかを考えてみたい。

まず、前述したように、本講義の日本人学生の多くは、英語能力の向上が受講動機となっている。そのため、タスク活動中の翻訳作業にも積極的に取り組んだ。また、留学生との英語でコミュニケーションをとろうとする姿勢も見られた。その結果、両者の間に徐々にコミュニケーションが生まれたのである。

英語使用のもうひとつの効果は、異文化間コミュニケーションに必要な能力（注5）を養成する場を設定できたことにある。日本語のコミュニケーションでは、言語、文化的に優位な立場にある日本人学生が、英語を使用することで、非母語話者同士のコミュニケーションを体験することになる。非母語話者同士のコミュニケーションの過程においては、それぞれの母語や文化の干渉を受けつつ、限られた言語能力で意味の調整・交渉を行い、コミュニケーションを創造していかなければならない。さらに、母語でのコミュニケーションでは経験することのない困難や戸惑いも伴う。こうした体験を通し、日本人学生は、異文化間コミュニケーションに必要な相手に対する柔軟性、忍耐、協力、文化的相違への敏感さなどを学んだ。

このように今回の試みでは、英語使用が有効に働いたが、無論、英語が異文化間コミュニケーション能力の養成に不可欠なものではない。しかし、現在、英語は「国際語」としてその地位が確立されつつあり、日本人学生の中でも英語学習、特にコミュニケーション能力の向上を図ろうとする者が増えている（注6）。このような関心が、異文化間コミュニケーションクラスを受講動機につながれば、専門分野を越えた日本人の受講者が増えることが期待できる。

また、今後、留学生の受入れの拡大を図るために、英語による講義を充実させ、留学生に日本語能力を要求しないという大学の増加が予測される。そうなれば、日本語能力の低い留学生がさらに多くなる。その中で、日本人学生と留学生の交流を促進するためには、従来のように留学生の日本語能力に頼るだけでなく、日本人学生が積極的に英語を使用し、コミュニケーションを図っていかなければならない。日本の留学生の大半が非英語圏出身という現状を考えれば、英語非母語話者同士のコミュニケーション教育の必要性は高くなる。今後、日本人学生と留学生混合の異文化間コミュニケーションクラスにおける英語使用の意義についてさらなる検討が求められる。

#### 4-2 コミュニケーション場面の設定

英語使用は、日本人学生の大きな受講動機となっていたが、英語のコミュニケーションに不慣れな彼らがその動機だけでコミュニケーションに参加できるわけではない。本講義では、グループで行うタスクを導入したことで、日本人学生と留学生のコミュニケーションが促進された。

日本人学生が外国語使用の困難やコミュニケーション・スタイルの相違を越えて留学生と話し合いをする場合には、まず、その話題を探すことが大きな壁となる。本講義では、タスクを課すことで、彼らに話題を提供することができた。タスクの課題は、現実の活動につながるよう、学生のニーズ分析をもとにして決定した。さらに、タスクの達成を義務付けたことで、受講者はコミュニケーション上の困難が起きても、それを回避することのできない状況に置かれ、その過程で、コミュニケーションを成立させるためのストラテジーを学んだ。また、作成物を完成させることにより、タスクの達成を目に見える形で確認でき、彼らの成成感はより高まった。こうしたタスクの設定が、コミュニケーションの促進を助け、日本人学生と留学生の距離を縮めるという成果をもたらした。話題の設定もなく、タスク達成の義務のない話し合いでは、伝え合う努力を必要としない自分の話しやすい話題だけを選択することができる。また、コミュニケーションがうまく進まない場合、受講者は話し合いを中断することもできる。しかし、それでは、異文化間コミュニケーション能力向上の場としては機能しない。また、ひとつのタスクを完成させた達成感、グループの連帯感を得ることもなく、留学生と英語でコミュニケーションを行うことへの自信にもつながらなかったであろう。

## 5. まとめ

本論では、英語を共通言語とした日本人学生、留学生合同の異文化間コミュニケーションの講義における日本人学生に対する教育効果について検討した。その結果、英語で行うグループワークを通して、日本人学生と留学生とのコミュニケーションが活性化し、日本人学生の異文化間コミュニケーション能力の向上に貢献できたことがわかった。これは、共通言語としての英語使用、タスクの導入が、日本人学生のグループワークへの参加を促した結果である。

本論で扱ったデータ数は限られており、異文化間コミュニケーション能力の測定もアンケート調査の結果、教師の観察をもとにしているため客観性に欠ける。しかし、日本人学生の異文化間コミュニケーション能力養成の重要性が高まっている現在、そのための教育を充実、発展させるためには、このような実践的試行の蓄積が必要なのではないかと考える。

付記：本研究は、公益信託日新製糖奨学育英基金の助成による。

## 謝辞

このコースについては、計画、実践の段階から東京農工大学留学生センター教授の越前谷明子先生、御園生保子先生のお力をお借りいたしました。また、本稿の執筆にあたって

は、御園生保子先生からご助言をいただきました。記して、感謝申し上げます。

注

(注 1) 土屋 (2000) は、「多文化クラス」を「様々な文化背景をもった学生が参加し、異文化理解について学ぶクラス」と定義している。

(注 2) 奥村 (1999) は、「インターフェイス」を外国人留学生と日本人学生をつなぐもの、つまり異文化理解や多文化共生のための共有すべきコンセプトという意味で使っている。

(注 3) 「やさしい日本語」は、阪神淡路大震災を契機に緊急時の情報提供の手段として開発された (佐藤、2000)。「やさしい英語」は、Longman “Dictionary of Contemporary English”の基本英単語 2000 語を中心として書かれた英語非母語話者に理解しやすい英語とした (田崎、2002)。

(注 4) 受講者は、全員国際環境農学研究科の 1 年生であった。留学生の出身国別人数は中国 3、ベトナム 3、タイ 1、カンボディア 1、バングラデシュ 1、ブルガリア 1 であった。

(注 5) Hawes&Kealey(1979)は、異文化間コミュニケーションに必要な能力として、次の 6 つを挙げている。「敬意の表示 (display of respect)」、「相手の考え方に対する柔軟性 (flexibility toward ideas of other)」、「相手のニーズを正確に推し量る能力 (accurate perception of the needs of other)」、「相手への信頼、親しみ、協力 (trust, friendliness, and cooperation with others)」、「障害に突き当たった際の冷静さと自己コントロール (calm and self-control when confronted by obstacles)」、「文化的相違への敏感さ (sensitivity to cultural differences)」

(注 6) 筆者が 2002 年度に、英語を共通言語として、学部学生に対して行った日本人学生と留学生混合の「Intercultural Communication」のクラスにおいて、21 名の日本人学生の内、15 名は「英語能力の向上」を第一の受講目的としてあげている。

## 参考文献

Hawes, F., & Kealey, D.J.(1979) *Canadians in development: An empirical study of adaptation and effectiveness on overseas assignment*. Ottawa: Canadian International Development Agency, Communication Branch Briefing Center.

細川英雄 (1999) 「日本語文化総合のめざす世界」細川英雄 (編) 『日本語教育と日本事情－異文化を超える－』明石書店. 121-249.

石井敏 (2001) 「異文化間コミュニケーション能力とは何か－構造と構成要素のモデル化の試み－」『獨協大学外国語教育研究』19 号、97-116.

奥村訓代 (1999) 「インターフェイスとしての日本事情」『広島大学留学生交流』第 4 号：9-20.



- 白畑知彦、富田祐一、村野井仁、若林茂則（1999）『英語教育用語辞典』大修館書店
- 田崎敦子(2001)「英語を共通言語とした大学院における日本人学生・留学生に対する異文化間教育についての検討」『留学生交流・指導研究』第4号：35-46.
- 田崎敦子(2002)「英語を共通言語とした理工系大学院におけるタスク活動を中心とした異文化間コミュニケーションクラスの試みー教師の役割を中心にー」『異文化間教育』第16号:140-150.
- 土屋千尋（2000）「他文化クラスの大学間および地域相互交流プロジェクトの実施と評価に関する研究」平成 9-11 年度科学研究費補助金基盤研究（C）（1）研究成果報告書

(資料 1)

“How is it going?”

Name:

Student No.

So far, you have had discussions among your groups twice. How have you found the discussions? Please write about your experiences by now freely.

1. In what ways have you expressed yourself to other members of the group? Please list all of the languages and communication styles you have used.

◆ Languages: (according to frequency)

No.1

> No.2

> No.3

◆ Gestures :

◆ Writing:

◆ Using dictionaries

◆ Translators

◆ Others:

2. Did the other members of the group understand you? When they did not understand you easily, what did you do in order to make yourself clear?

3. Did you understand what the other members said? When you did not understand them easily, what did you do in order to understand them better?

4. Please describe how the communication in your group has been going. Do you think each member expresses him/herself enough? Does each member understand other members' opinions well? And were you able to come to an agreement through the discussions?

5. The common language in the course is English. Have you found the lectures?

*Lectures:* Do you any difficulty in understanding the lectures? If so, why?

For example, due to the English (too difficult, incorrect, too fast, too slow) or due to the content (not familiar, out of major), and so on.

*Handouts:* Are they clear and easy to understand?

*Reports:* Do you have any difficulty in making your reports in English?

(資料 2)

“How was the course?”

Name:

Student No.

You have participated in the lectures and group work in this course. How did you like them? Please write about your experiences freely.

1. Why did you take this course? What did you want to learn in this course?

2. In what ways have you expressed yourself to other members of the group? Please list all of the languages and communication styles you have used.

- Languages: (according to frequency)

No.1

> No.2

> No.3

- Gestures :

- Writing:

- Using dictionaries

- Translators

- Others:

3. Did the other members of the group understand you? When they did not understand you easily, what did you do in order to make yourself clear?

4. Did you understand what the other members said? When you did not understand them easily, what did you do in order to understand them better?

5. Please describe how the communication in your group has been going. Do you think each member expresses him/herself enough? Does each member understand other members' opinions well? And were you able to come to an agreement through the discussions?

6. What kind of problems or difficulty did you have in your discussions? If you had any problems or difficulties, how did you solve them?

7. You used English as the official common language throughout your group work. Did it influence your communication? For example, did it make it difficult or easy for you to express what you wanted to say or ask?

8. Through the group work, were you able to get used to discussions with the international students in English?

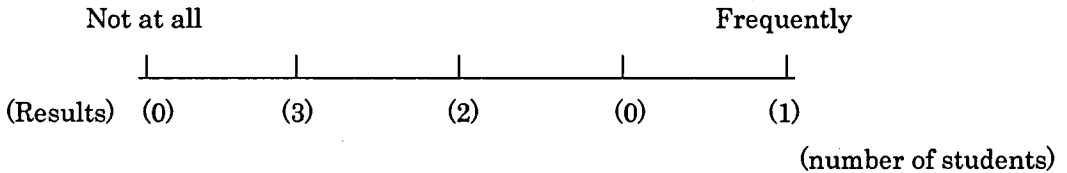
9. Teachers gave comments and suggestions to each group throughout the group work. Were these comments helpful?

a. If yes, in what way were they helpful?

b. If no, why were they not helpful?

◆ One of the purposes of the course is to encourage communication among international students, no matter which language you use.

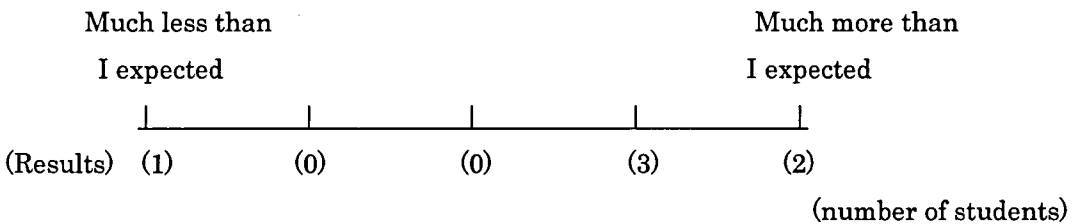
10. At the beginning of this course, how often did you talk with others in the class?



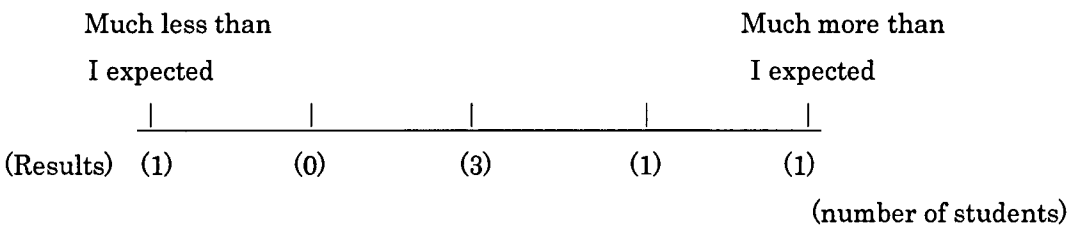
Please describe what (e.g., greetings, majors, daily life), with whom (e.g., students from your own country, students from other countries) and in what language (e.g., English, Japanese, or your mother tongue) you communicated at the beginning of the course:

11. How much did you communicate throughout the course?

(1) With your group members

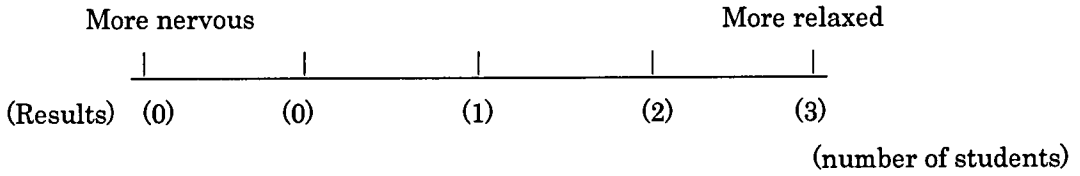


(2) With the students out of your group

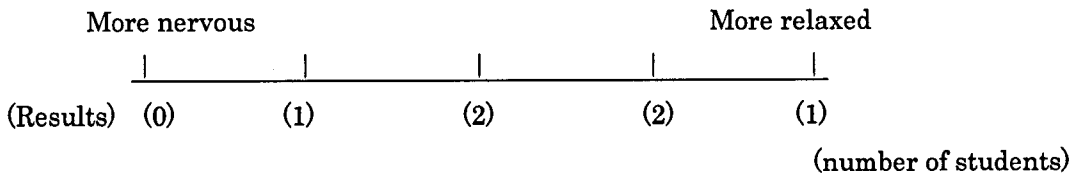


12. How did you find it to talk with others? Did you find yourself more relaxed as you experienced the group work?

(1) With your group members



(2) With the students out of your group



13. Comparing your communication at the beginning of the course (see Q10 above) with now, do you find any differences? If so, please explain them. For example, about what, with whom and in what language did you communicate at the beginning of the course compared with now?

## Development of Japanese Students' Intercultural Communication Competence —Through Group Work of Japanese and International Students in English—

### Abstract

This paper analyzes Japanese students' communication activities in group work with international students in English in a task-based Intercultural Communication course, and examines its educational effectiveness, based on their self-evaluation. It then suggests how we can motivate Japanese students to participate in intercultural communication courses and improve their intercultural communication competence.

This course was conducted at a graduate school of science, so the students' majors may not necessitate an immediate need of their intercultural communication skills. Therefore, the main objective of the Japanese students taking this course was to improve their English communication skills rather than promote their interests in intercultural issues. This desire motivated the Japanese students to participate in group work and communicate with international students in English. They completed their task, which was to translate information about the university's campus from Japanese into English, in cooperation with international students, while experiencing differences in communication style, and difficulties in making themselves understood in English. As a result, they learned how to carry out communication in a foreign language with students of different languages and cultural backgrounds, by using a number of different strategies, such as non-verbal communication, and asking other students to act as translators. Moreover, the accomplishment of the task gave the students confidence in interacting with international students in English, and encouraged them to communicate more with international students in English.

It was concluded that these achievements were brought about by their strong motivation to develop their English communication skills, and the task activity, which promoted the students' communication in the group.